

## 令和5年度 ミニトマト(アンジェレ) 技術情報 No.3

- 1 高温対策のために遮光資材を設置しましょう。
- 2 7月以降は葉かび病、オオタバコガに注意しましょう。
- 3 靴カバーの着用など、土壌病害の拡大防止対策を徹底しましょう。



### 1 栽培管理

#### (1) かん水

**1回あたりのかん水量**は、2本仕立て栽培の場合、**株あたり2～4L**が目安です。夏の高温期は吸水量が増えるため、注意しましょう。

かん水が不足している場合、草勢が弱まり、茎が細くなります。草勢回復のために、かん水量を増やしましょう。

#### (2) 追肥

草勢を見ながら、**10～14日おきに実施**します。2本仕立ての場合の**標準施肥量**は、**窒素分量で株あたり2g**です。

収穫開始後は着果負担が大きくなります。標準量でも草勢低下が見られる場合は、追肥の量を増やして草勢維持に努めましょう。

#### (3) 温度管理

**30℃以上の高温**は**着果不良**や**着色不良**、**軟化玉**など生理障害の原因になります。

また、曇雨天後の強日射や高温は萎れの原因になります。天気予報を見ながら、早めに**遮光率20～30%程度の遮光資材**を設置しましょう。

#### (4) 誘引

斜め誘引では、生長点が横ばい～下向きになると草勢が低下しやすいため、**上向き**になるように結束します。

#### (5) 摘花(果)作業

花茎の本数は**2本程度**に揃え、**1花房あたり20果**を目安に摘花(果)します。高温期は花茎を1本にすると、株の負担が減り、果実品質と草勢が安定します。遅れ花(果)は除去しましょう。



図1 ダブル花房

#### (6) 摘葉

**着色が開始した果房より下の葉**は**摘葉**します。一斉に摘葉すると草勢低下の原因になるため、数枚ずつ計画的に実施しましょう。

## 2 病害虫防除

- (1) 管内では**葉かび病、斑点病、タバコガ類**の発生が見られています。
- (2) 防除暦を参考に**定期防除**を行いましょ。農薬を使用する際はラベル表示を確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 防除の際は**葉裏、下葉まで十分な量の薬液がかかるように丁寧に散布**します。
- (4) 病気がついている下葉は摘葉し、**作業後は圃場に残さず、処分**しましょう。
- (5) **萎ちょう病などの土壌病害の拡大防止**のために、他の生産者ほ場を訪問する場合には**靴カバーを着用**しましょう。

病害虫名	5			6			7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
葉かび病																		
オオタバコガ																		

□:発生時期    ■:重点防除時期

図2 発生時期の目安（雨よけ栽培の例）

### 【葉かび病】

発病条件：発病適温 20～25℃、多湿条件で発生しやすいです。  
肥切れや着果負担で発生が助長されます。

対策：下葉の整理、肥培管理や摘果の徹底による草勢維持

### 【オオタバコガ】

生態：県内では7月中旬から10月まで成虫の飛来があります。広食性の害虫で、幼虫は生長点付近の莖葉や果実、花蕾を加害します。

対策：被害果の片付け、幼虫の処分、防虫ネットの利用



図3 葉かび病の病斑



図4 オオタバコガ（幼虫）

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★6月1日～8月31日は**農薬危害防止運動**

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。